

項目	自己評価	中期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況 未達成	改善方策	学校運営協議会による評価	評価
確かな学力	S	①授業改善と基礎基本の確実な定着、応用力の育成 ・全国及び県学力定着調査、埼玉県学力調査 +5P、「授業がわかる」最肯定評価60%以上(4件法) ②主体的・対話的で深い学びの確立 「学習のまとめや振り返りを自分の言葉で表現することができた」「目的にそった話し合いや意見交流により、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」最肯定評価60%以上 ③粘り強く継続的な学習に向かう態度の育成 ・家庭学習時間90分以上65%以上、30分未満5%以内 ④ICTの活用による深い学び ・タブレット/パソコンを使った授業づくりができる教員100%、ネット学習での家庭学習が定着した生徒80%以上 【学力向上】	①講師招聘の中小合同研を行い、実践を共有する。(学力、特別支援、児童生徒理解) ・大栃の授業スタンダードの質の向上を図るために、生徒や家庭への働きかけの方向性を示すとともに実践を進める。生徒会からの啓発の推進を行う。 ・小中個人カルテを共有し、個々の手立て・伸長へつなげる。 ②週1回のチーム会、隔週のチーム長会の実施。授業での振り返りの質の向上を重点的に取り組む。 ③保護者に「授業スタンダード」「学校生活7カ条」の配付及び説明を行う ・生徒に「授業スタンダード」を説明、全員に配布し、教室にも掲示。授業者も生徒も授業スタンダードを意識して授業に臨む。模範的な自主学習の掲示、評価。 ④1人1台のタブレットを授業や家庭学習で有効活用する。 ・授業でのICTを活用しての課題提示。学習の進捗の把握。 ・ネットワーク環境を使った授業、家庭学習にネット学習を取り入れる。 ・学校の情報機器に係る環境整備を進める。	①市実態調査「授業の内容がわかる」5教科の全ての教科 最肯定評価55%以上 ②授業評価アンケート ・授業力チェックシート「学習のまとめや振り返りを自分の言葉で振り返ることができた」最肯定評価55%以上 ・「目的にそった話し合いや意見交流により、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」最肯定評価55%以上 ③家庭学習時間(平日の勉強時間)・90分以上(54%)、30分未満(15%) ④タブレットを使った授業ができる教員100%、ネットワーク環境を使った家庭学習ができる生徒100% 「まとめ」や「振り返り」を意識した授業を各教科で展開し、生徒のノート等でも成果が見えた。ICT分野での活用が進んだ。	①「授業の内容がわかる」学校評価(最肯定)33.3% ②「学習の振り返り」5教科の最肯定0.0%-83%で40%の教科で達成 ③「自分の考えを深めた」最肯定25-100%で53%の教科で達成 ④家庭学習時間(平日の勉強時間)・90分以上(54%)、30分未満(15%) ⑤タブレットを使った授業ができる教員100%、ネットワーク環境を使った家庭学習ができる生徒100% 「まとめ」や「振り返り」を意識した授業を各教科で展開し、生徒のノート等でも成果が見えた。ICT分野での活用が進んだ。	・授業スタンダードの徹底。「めあて」と「振り返り」の徹底を行い、振り返りの質の向上を図る。 ・考えを深めることのできる話し合いの場面の重点的な取組、探究的な学習に向けての研究を進める。特に、左質問2項目②③の重点的な取組を進める。 ・授業や家庭学習は、小学校との系統性を持った取組を具体的に進める。 ・教科間連携、小学校の一貫教育を秋田からの講師招聘を入れ授業の質の向上を図る。 ・ICT分野は、先進的な取組・研究を探究的に加速する。	授業内容理解などの肯定評価や家庭学習時間が目標指標以下であるものの、一昨年と比較すると各項目ともに改善されており、本年度の取組成果が一定表れ始めていると判断する。次年度は目標が達成できるよう、さらに工夫を重ねた取組を行っていただきたい。	S A B C
	A							
	B							
	C							
豊かな心	S	①郷土愛・チャレンジ精神・コミュニケーション力・自尊感情の醸成(肯定評価90%以上)「地域のために貢献できる人間になりたい」「将来の夢や目標を持っている」「自分の考えや思いを伝えることができる」「自分の良さがわかる」 「学びや経験を将来につなごうとしている」 ②学校生活の充実 Q-U学校生活不満足群5%以内 【自尊感情】	①教職員研修により、教育力・指導力を高める ・自尊感情(2回)・道徳力(1回) ・保護者・地域が参観できる道徳参観日の実施 ②仲間づくり・集団づくりを通じていじめを生まない学校をつくる。 ・トラブルが起こった時の迅速な対応。 ・いじめ防止推進委員会の開催(月に一度及び適宜)	①キャリアアンケート(肯定評価) ・自分の良さがわかる(70%以上) ・地域のために貢献できる人間になりたい(100%) ・人の役に立つ人間になりたい(95%以上) ②いじめの解決率100% ・「学校が楽しい」肯定 90%以上 ・Q-U学校生活不満足群 10%未満	①「自分の良さがわかる」肯定58%②地域のために貢献できる人間になりたい 88%③「人の役に立つ人間になりたい」肯定92% ②いじめの件数2件、100%解決(1月末現在)、「学校が楽しい」肯定92% ・Q-U学校生活不満足群16% 「魅力ある学校づくり」に焦点をあて取り組んだ。また、生徒のその日の気持ちをPCで表現させる取組を行い、声かけもできた。①のアンケート結果で、未達成の数値が多い。	・講師招聘による道徳校内研修により、教員の資質指導力の向上を図る。 ・集会等での仲間づくりの場面をつととにも、「魅力」の研究推進を継続する。 ・地域を理解し、主体的に地域に貢献できる生徒の育成を「総合的な学習」や「行事」を中心として進める。	小規模校の特性を活かし、個人カルテを基として生徒の個性に合わせたきめ細かな指導により、長所を伸ばして能動的に動ける意欲の向上に努めていただきたい。 また、コロナ禍により大きな声を出す機会や、合唱なども制限される中、感染防止をしっかりと行っただけで挨拶運動を行う等、しっかりとコミュニケーションが身につくような取組も行っていた。	S A B C
	A							
	B							
	C							
健やかな体	S	①運動意欲を高め、体力の向上を図る(最肯定評価) ・「体育の授業が楽しい」80%以上、「部活動が充実している」45%以上 ②全国体力・運動能力・運動習慣調査 全国平均を上回る ③基本的生活習慣の確立 ゲーム・スマートフォン・テレビの時間 2時間以内65%以上 <基本的生活習慣・体力向上>	①②生徒が主体的に取り組むことができる体育的行事の実施により運動意欲を高める。 ・物部地域学校協働本部との協働により活気ある地域と共にある運動会、マラソン大会の実施 ③配付物や掲示物を活用し、家庭との連携により望ましい生活習慣を確立する。 ・物部っ子生活リズム計画の見直しと啓発 ・保・小・中合同子育て講演会を実施する。 ・ネットの弊害を学習の際に生徒と考える。保護者に話す機会を持つ。	①授業意識調査 ・「体育の授業が楽しい」最肯定評価75%以上、 ・「部活動が充実している」最肯定評価40%以上、 保小中合同運動会「満足した」肯定評価90%、 マラソン大会「満足した行事」肯定評価90% 市生活実態調査 ②全国体力・運動能力・運動習慣調査では、全国平均以上 ③ゲーム・スマートフォン・テレビの時間2時間以内55%以上 ・午前7時までに起きている生徒の割合80%以上 ・朝食を食べている生徒の割合95%以上	①(最肯定)「体育の授業が好き」55%、「部活動が充実している」52%、 保小中合同運動会やマラソン大会で、 生徒は満足いく振り返りがされた。 ②全国体力・運動能力調査(2年)は、 男子は柔軟性、女子は全体的に課題が見られる。 ③ゲーム等の時間2時間以内65%、 午前7時までに起きている生徒83%、 朝食を食べている割合96% 特に、ゲーム等により生活習慣に課題が見られる。	・継続して、部活動及び体育的行事で生徒が主体的に動けるように進める。 ・保護者・生徒・教職員の協働による生活習慣の確立「生活リズム計画」を周知し再確認を行う。 ・情報モラル教育を情報教育を推進しながら学ぶ。また、SNS等の研修を保護者にも呼び掛ける。	個人の体力差が大きい中、統一的な体育内容が苦手な生徒もいると思われる。一方で、合同運動会では得意種目で能力を十分に発揮している姿が見られ、またマラソン大会では自己目標を達成するなど、それぞれのペースに合わせた運動は積極的に進んでいると考える。今後は、体育の授業においても、個性に合わせた指導を行っていただきたい。 家庭の生活リズムやゲーム等に費やす時間は改善が見られるので、引き続き、家庭の生活改善指導に努めていただきたい。	S A B C
	A							
	B							
	C							
保護者地域との連携	S	①「大栃保・小・中学校運営協議会」及び「物部地域学校協働本部」の一体的な取組を継続的に進めることにより持続可能な「地域とともにある学校づくり」を進める。 ②保護者間の交流を図ることで、子どもの成長を育むための中小PTA活動を活性化していく。 ③紙媒体やメールやホームページ等を使って、積極的に情報発信する。 【郷土愛】【コミュニケーション力】	①学校運営協議会の計画的開催(6回)と教職員や保護者を巻き込んだ熟議の実施、物部活性化検討委員会への参画 ・物部地域学校協働本部の計画的開催(年3回)と各部会の活性化による協働の推進 ・物部地域ボランティア委員の確保と幅広く継続的な地域学校協働活動の推進 ・「熟議・協働・マネジメント」を中心とした「チーム物部」により資質・能力を育む。 ②小中PTA活動の推進、小中PTA役員会(年9回) ③学校だよりや、ホームページ、Facebookを使って、学校の様子や一貫の取組を保護者や地域に伝える。	①生徒アンケート結果・自尊感情(肯定評価・95%以上) ・自分の住んでいる地域が好き ・地域の方々に感謝している ・地域のために貢献できる人間になりたい ②参観日等の中小合同開催がR2年度以上に進んだか ③学校評価(肯定評価 保護者90%以上) ・学級や学校の様子をたよりなどで積極的に知らせているか	①運営協議会6回の予定、12月の熟議も実施できた。 「自分の住んでいる地域が好き」肯定88%、「地域の方々に感謝している」肯定96%、「地域のために貢献できる人間になりたい」88% ②参観日等の中小合同、市の道徳部会の研修を行えた。 ③「学級や学校の様子をたよりなどで積極的に知らせているか」肯定・保護者91% コロナによる影響はあったが、工夫をして保護者や地域に開く場面を持つことができた。	・大栃保・小・中学校運営協議会、教職員・保護者・委員による熟議、協働本部会、物部の教育を考える会を継続して実施する。 ・PTA活動、子育て講演会等を継続して実施する。 ・行事・活動は、生徒の主体性を伸ばすよう努め、自尊感情を育てる。 ・情報発信は、たより、HP、facebook、メールを使う。また、状況に応じて、生徒のPCを使った情報発信をする。	昨年に引き続き、コロナ禍により地域活動や交流事業が制限される中で、時期に応じて臨機応変に対応できているが、長期にわたり活動内容が制限される中、本来の実施内容が失われないよう、振り返りや支援体制の維持は必要不可欠である。 支援してくれている方々は高齢者が多い状況であり、保護者などPTAが積極的に各種事業に参加することも必要であると考え。山村留学、特認校制度の導入に向けた準備が必要である。	S A B C
	A							
	B							
	C							
保小中一貫教育	S	①保小中一貫教育で学びをつなぐ 保育年長から中学生までの10年間の学びが系統的に実施できる。系統表の完成と実践。 【チャレンジ精神】	①保小中一貫教育の推進 ・中山間の特色のある学校づくり(県指定)を活用した系統的な生活・総合的な学習の研究 ・小学校への授業の乗り入れ、小学生の受け入れ ・教員の授業研究、小学校との合同研修	①生徒の意識調査(肯定評価 80%以上) ・難しいことでも失敗を恐れず挑戦している ・将来の夢や目標を持っている ・自分からすすんで人に挨拶できる ・自分の考えや思いを伝えることができる ①子どもの交流活動(肯定) ・「中学校生活が楽しみである」(5・6年生アンケート100% 10月実施 80%以上) ①教職員の交流 合同研修会(年15回)、合同連絡会(年10回)	①「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」肯定75%、「将来の夢や目標を持っている」肯定71%、「自分からすすんで人に挨拶できる」肯定88%、「自分の考えや思いを伝えることができる」肯定75% ①子どもの交流活動(肯定的評価) ・「中学校生活が楽しみである」(5・6年生アンケート100% ①教職員の交流 合同研修会(16回)、合同連絡会(13回)、月1定例会の実施 意識調査で未達成の内容が多かった。一貫教育は、つなげる場が多かった。	・行事の整理と合同開催の研究を継続する。(運動会、マラソン、参観日) ・小学校外国語の授業への中学校教員の乗り入れ、小学5・6年生の受け入れを定着させる。総合的な学習の時間やICT分野等での小学校との相互支援。 ・合同授業研究と研究授業の実施。 ・小学校との系統だった「生活・総合的な学習の時間」の整理をし充実につなげる。	中学校での学習体験を通じて、中学校生活に夢や希望を持っているなど、小学校との連携が図られている。 コロナ禍により運動会の準備も制限される中、保育園児から児童生徒達は十分に練習の成果を発揮しており、一生懸命がんばる姿から地域の人たちも元気をもらおう等、保小中一体となった取組みができている。 この他にも、物部っ子Fesや小中合同マラソン大会など連携した取組みが図られている。今後も積極的な一貫教育に取り組んでいただきたい。	S A B C
	A							
	B							
	C							

※評価欄 評定S「優れている」、評定A「良い」、評定B「おおむね満足」、評定C「要改善」

※この評価書は、年度末に学校のホームページで公表